

フィールド風

(現場)からの風

宮田守男

今日は、五節句の一つ、男の子の健やかな成長を願う端午の節句。昭和23年に国民の祝日「こどもの日」に制定された。この日は

子ども的人格を重んじ、子どもの幸福をほかに、母に感謝する日だ。しかし母に感謝する日だとの認識は多くの人が抱いていないことも事実だ。5月第2日曜日の「母の日」に感謝の気持ちを伝えるからと言わずに今日「お母さん」いつも「ありがとう」と心を含めた言葉を贈ってほしい。

4月下旬に厚生労働省の国立社会保障・人口問題研究所が5年後の日本の将来推計人口を公表。日本は2070年に人口8700万人、65歳以上の高齢者が人口の4割に、また

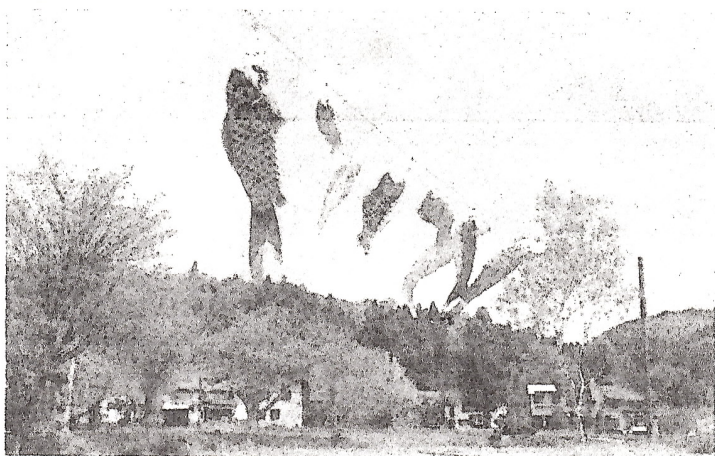
毎日の暮らしを考えよう

日本に住む外国人が1割になるとの数値は、予想された数値とはいえず現実の厳しさを痛感した人は多かったはずだ。現在の人口から約3割減少した社会がどの様になるか想像するのも嫌になってしまう

社会経済学でも数字は魔物といわれている。捉え方によって意味合いがさまざまに変わる。推計した数値が、人の心に伝わるのか。インツプ寓話集の「ライオンを見たキツネ」でライオンを見たことがなかったキツネが、初めてライオンを見た時は、死ぬほどびっくりしたが次に出くわした時は怖かったけど、初回ほどではなかったと。そして3度目は、わざわざライオンに近寄って、話しかけるほど大胆になった

との話だ。人口問題に関する数値は、多くの場面で刺激的に伝えられていくだろう。大胆な感情になりすぎた人だけに、なるまいと考えさせられた。

飽きっぽさを戒める「三日坊主」。4月から新たな環境への緊張が和らぐ1カ月が経過した。緊張が高まる3日目、緊張が薄れる3カ月後や3年後。初心を忘れ、意欲が低下し、衝動的に退職や転職を考えるこの言葉「三日三月三年」。だが今年、就職初日の午後には退職届を出したとの情報に驚く。コロナ感染対策の移動制限緩和で社会情勢は激変し続けるだろう。だからこそ、毎日の暮らし方を今一度、見つめ直してほしいと願っている。(信州地域社会フォーラム 会員・白馬村森上)



岩岳地区内広場に鯉のぼり。少子化時代では地域全体での行事は心温まる。